



著者・塩田庄兵衛

塩田庄兵衛 東京都立大学教授。大正十年、南国土佐は、

由緒ある「土佐紙」の名産地、伊野町の和紙原料商に、長男として生まれた。かてて加えて、古風な「庄兵衛どん」という名前の持主なので、「梅干じじい」を思い浮かべるかもしれないが、本ものはかわいいベビー・フェースのお仁、まだ四十台の働きざかりである。経済学部初代学部長を二期にわたって勤めている。

科では、野球部の主将をした。別に学者になるつもりはなかったが、大都会で蟻のようになうごめく労働者のイメージが、妙に心にこびりつき、のちに経済学を志す動機になったという。東大経済学部では、大河内一男と大塚久雄の両先生から指導をうけ、学問の目をひらかれた。戦時中の暗い研究生活を終え、戦後は社会思想史、労働運動史に専念するようになった。現在、都立大学では労働問題を講義している。職員組合の委員長をしたこともある。

いそがしい日課をさいて、二人の坊っちゃん、嬢ちゃんといっしょに、ギリシャ・ローマ神話を読むのが、父なる彼のたのしみである。それは人間の歴史の雄大なドラマを、純な魂にしみこませたいからだそうだ。先年、国際学術会議出席をかねて、ソ連からヨーロッパ各地、また中国・北朝鮮を旅行した。世界に目をひらいた彼の活動は、ますます期待されている。

塩田庄兵衛著

改訂版 労働組合入門

¥310

KAPPA



BOOKS